

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	音楽Ⅰ	単位数	2	学年	1
学科・コース	普通科 特進コース、総合キャリアコース、英語コース、看護医療進学コース 幼児教育コース、スポーツコース						
教科書	音楽Ⅰ 高校生の音楽 楽典の森		副教材				
科目の概要	演奏する上で必要な知識である、楽譜を読む、簡単な音楽用語など楽典を学ぶ。 鑑賞（映像など）課題を通じて豊かな感情や心情を養うと共に鑑賞時のマナーを学ぶ。 日常における音楽の役割や社会で音楽が果たす役割を考える。 楽器の合奏やリズム教材などで他人と協力する大切さや音楽の楽しさを学ぶ。			評価の観点	① 知識・技能の習得 楽典を理解する。 ② 思考力、判断力、表現力の育成 実技は発表形式で評価する。また練習レポートなどで練習過程も評価する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 鑑賞や調べ学習などにおいて、ワークシートやレポートなどで自分の意見を表現する。		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・実技評価 ・考査 ・小テストなど授業で行うテスト ・鑑賞後のレポートなどの提出物 ・調べ学習などの提出物		
授業内容	・基本的な楽典と応用 ・歌唱（発声、合唱など） ・リズム合奏 ・楽器を使用する合奏 ・鑑賞課題 ・調べ学習			学習方法	調べ学習についてはiPadを使用する。 楽典、実技においては配布プリントを中心に学習をする。		
				備考			

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）実技演習	単位数	1	学年	1
学科 ・ コース	普通科 音楽コース						
教科書	なし		副教材	・個人のレベルに合わせた幅広い教則本（バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1巻、2巻、ソナタアルバム1巻、2巻など）			
科目の概要	音楽を学ぶにあたり、必ず習得しなければならない読譜力、ピアノ実技の向上を基礎から学び、表現力を磨くことをめざす。 進度に合わせて教則本を使用し1対1での個人レッスンを授業内で展開する。 また、人前で弾く上でのマナーを学習する。			評価の観点	①知識・技術の習得 楽譜に書かれている内容をきちんと理解し、弾けているかを評価する。また、人前で弾く上でのマナーが出来ているかも評価する。 ②思考力・判断力・表現力の育成 曲を理解し表現できているかを評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 取り組み態度・出席による評価、教材をどれだけこなせたかを評価する。		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・実技試験 ・進度点 ・必要に応じた小テスト（リズムテストなど）		
				学習方法	日常生活の中で必ず毎日練習時間を確保すること。 毎日30分～60分を目標に練習することが望ましい。		
授業内容	・1対1での個別指導と自主練習			備考			

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）音楽探究	単位数	1	学年	1
学科 ・ コース	普通科 音楽コース						
教科書	なし		副教材	なし			
科目の概要	大阪音楽大学との連携により、普段、個人ではできない音楽体験をする。 様々な体験から、新たな音楽体験を積むことにより2年生からの専攻選択のヒントを得る。 更に関西・日本を代表する音楽専用ホールで、著名な演奏者が本番の前にどのようなリハーサルを行っているかを実地見学する。 夏にミュージカルワークショップを体験し、ミュージカルに必要なスキルを知る。			評価の観点	①知識・技術の習得 授業毎のレポートでどの程度理解しているか。学期ごとの小テストあり。 ②思考力・判断力・表現力の育成 課題に対してのグループ発表。 ③主体的に学習に取り組む態度 各個人の意欲や努力も加味。調べ学習課題をきちんとこなせているか。きちんと自分の意見が文章に反映されているか。		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 随時、ワークシート等を用いて学びの振り返りを行う。 グループ発表、ワークシート、レポート、小テスト、平常点で評価する。		
				学習方法	これまでに触れたことのない音楽に出会う。人生の財産となりえる体験、知識、感じたことを、しっかりとレポートにまとめる。		
授業内容	1, 2学期：大阪音楽大学の授業を体験する。 2年生からの専攻選びを具体的に考えていく。「ピアノ」「声楽」「吹奏楽・管弦打」「ポピュラー・ミュージカル」4分野の学びについて大阪音楽大学の先生方から詳しく説明を受ける。 3学期：引き続き大阪音楽大学の先生方の授業・説明。2年次から始まる専攻を各自決定する。			備考			

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）ピアノ実習	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	普通科 幼児教育コース						
教科書	なし		副教材	・SeikeiPiano（学園共通教則本） ・個人のレベルに合わせた幅広い教則本（バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1巻、2巻、ソナタアルバム1巻、2巻など）			
科目の概要	保育で実践するピアノ実技の向上をめざす。 必ず習得しなければならない読譜力、ピアノ実技の向上を基礎から学び、表現力を磨くことをめざす。 進度に合わせた教則本を使用し1対1での個人レッスンを授業内で展開する。 3学期には、学園ホールで発表会を実施。			評価の観点	① 知識・技術の習得 楽譜に書かれている内容をきちんと理解し、弾けているかを評価する。また、人前で弾く上でのマナーが出来ているかも評価する。 ② 思考力・判断力・表現力の育成 曲を理解し表現できているかを評価する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 目標曲を設定し目標に達しているかを評価する。授業の振り返りレポートなどを評価する。		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・実技試験（ピアノ演奏、弾き歌いなど） ・学期の初めに目標を設定し達成したか。		
				学習方法	日常生活の中で必ず毎日練習時間を確保すること。 毎日30分～60分を目標に練習することが望ましい。		
授業内容	・1対1での個別指導と自主練習			備考			

2026年度 芸術科（音楽）シラバス

教科	芸術科（音楽）	科目	音楽Ⅰ	単位数	2	学年	1
学科 ・ コース	普通科 音楽コース						
教科書	音楽Ⅰ 高校生の音楽	副教材	コールユーブンゲン コンコーネ50番 音楽通論				
科目の概要	音楽のあらゆる分野に共通する楽譜を読む力の基礎を育み、音楽コースとしてより専門的な楽典の習得を目指す。 歌唱やリズムの実技試験などを年間を通じて設け、正しい発声法や声楽的側面からどの楽器にも共通する音楽表現、正しいリズム感と読譜力を学ぶ。 聴音においては、高校から始める生徒も多いので、習熟度別にクラスを2分割し、基礎の定着と応用を習得させる。 定期考査を毎学期実施する。また小テストや毎時間の授業確認テスト、単元テストを適宜実施する。 実技テストにおいては発表形式での実技試験を授業内で行う。			評価の観点	① 知識・技術の習得 音楽表現するにあたり、必要な楽典の学びが習得できているか。 ② 思考力・判断力・表現力の育成 発表会形式の実技試験を通し、歌唱法が習得できているか。初見リズムテストを実施し楽譜を読み解く力がついているか。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日々の復習・予習がなされているか、確認テストや単語テスト、小テストを通じて判断する。		
				評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・実技試験 ・平常点、提出物、小テスト、授業態度		
				学習方法	楽典は小学校・中学校の復習、及び新しい範囲を学習します。これまで学習した音楽の基礎知識は理解しておいてください。今後、音楽を表現する上でも重要です。 必要に応じて、補習を実施します。		
授業内容	1 学期 ・発声練習 ・校歌について ・楽典基礎（基本的な楽譜の読み方） 2 学期 ・コンコーネ・コールユーブンゲン ・楽典（音程と複音程、変化音程について） ・リズム学習 ・聴音の基礎 3 学期 ・コンコーネ・コールユーブンゲン ・楽典（和音について） ・聴音（聴音の基礎と応用）			備考			